

令和2年度 病害虫発生予察情報 技術情報第4号

トビイロウンカの追加防除について

令和2年9月1日

広島県西部農業技術指導所

1 対象作物 水稲（県内全域）

2 概況

- (1) 広島県では8月13日にトビイロウンカ（図3）について警報を発表している。
- (2) 8月下旬の巡回調査では、前回警報を発表した平成10年よりも多い発生となっている（図1）。
- (3) 8月下旬の巡回調査では、要防除水準（株当たり5頭以上）を超えるほ場が見られ、今後、坪枯れなどの被害発生が予想される（図4）。
- (4) 予察田（呉市安浦町）における8月第6半旬の100株当たりの発生量は、3,200頭であった（平成71.6頭/100株、前年（注意報発表年）70頭/100株）（図2）。
- (5) 8月下旬には、一部で坪枯れ被害が確認されている。
- (6) 中国地方1か月予報（8月27日発表）では、今後発生に好適な気象条件となっている。

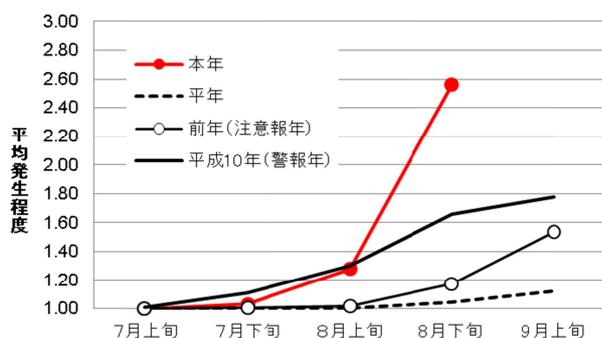


図1 巡回調査における発生推移(8月下旬)

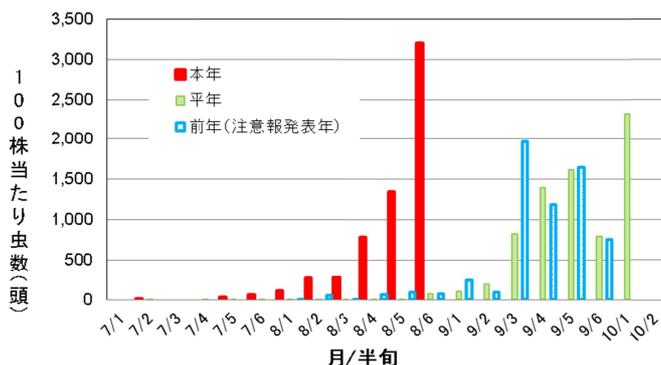


図2 予察田における発生推移(呉市安浦町)

3 防除対策

- (1) 8月下旬現在、ほ場で確認されているのは飛来後第2世代成虫と推定される。次の幼虫発生盛期は9月下旬～10月上旬頃と予測される（表1）。本年は近年で最大級の発生量が見込まれるため、基幹防除後も発生が多い場合は速やかに追加防除を行う。

追加防除が必要な目安（要防除水準）8月下旬～9月上旬に株あたり5頭以上（成幼虫計）

- (2) トビイロウンカは、卵や成虫に対する薬剤効果が低いため、幼虫発生盛期が防除適期となる。
- (3) トビイロウンカは地域によって発生状況が異なり、第2世代以降は、ほ場内で各飛来時期の卵から成虫までが混在するため、実際の発生状況を確認して防除する
- (4) 9月上旬収穫予定の早生品種で被害発生が確認された場合、防除はせず可能な限り早めに収穫する。
- (5) 9月中旬以降収穫予定の品種で被害発生が確認された場合、またはウンカの発生が多い場合は、薬剤の収穫前日数を遵守して防除を行う。

表1 トビイロウンカの発生と防除適期の予測

地帯	地点 (アメダス)	防除適期	
		第2世代幼虫	第3世代幼虫
南部	福山	8/20~8/28	9/22~10/3
	呉	8/21~8/27	9/21~10/1
中東部	三次	8/26~9/1	9/25~
	庄原	8/28~9/7	10/12~
中西部	東広島	8/25~9/3	9/27~
	広島	8/19~8/26	9/17~9/28
北部	高野	9/6~9/24	-
	大朝	9/1~9/14	-

注) 飛来日7月6日, 7月11日, 発育零点12.1℃, 有効積算温度183日度として, 県内アメダスデータをもとに, JPP システムを利用して予測。

- (5) 飼料用稲, 飼料用米で防除を行う際は, 実需者に防除の可否を確認し, 農林水産省の「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」を参照して薬剤を選定する。
- (6) 8月中下旬の防除適期に防除を行っていない場合は, 特に発生に注意する。
- (7) トビイロウンカは株元付近に生息する。粉剤や液剤により防除を行う際は, 薬剤が株元に十分届くよう散布する。
- (8) 収穫時期に近い防除となるため, 農薬を散布する際は使用時期(収穫前日数), 使用回数等使用基準を遵守する。



図3 トビイロウンカ長翅型成虫と老齢幼虫



図4 多発田の被害状況(令和2年8月26日)

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム  
 東広島市八本松町原6869  
 TEL: 082-420-9662 (直通)



広島県 植物防疫 検索



ホームページ(植物防疫) (<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>)